

千歳川流域における新たな治水対策の経緯

札幌開発建設部

年 月	経 緯
昭和56年8月	石狩川水系既往最大の洪水が発生 (千歳川流域 氾濫面積:19,200ha、浸水家屋2,683戸)
昭和57年3月	石狩川水系工事实施基本計画において、石狩川の高い水位の影響を水門により断ち、千歳川の洪水を放水路で直接太平洋へ放流する千歳川放水路計画決定
昭和63年4月	千歳川放水路事業着手 (放水路計画については地元千歳川流域自治体等からは賛成、漁業団体や自然保護団体等からは反対の意見があり、事業を進めることができない状態が継続)
平成9年9月 ～平成11年6月	北海道知事の設置による「千歳川流域治水対策検討委員会」での治水対策検討
平成11年7月	北海道知事から意見を受け、放水路計画を中止
平成11年12月 ～平成14年3月	国、道の共同設置による「千歳川流域治水対策全体計画検討委員会」での放水路計画に代わる新たな対策の検討。治水計画に優れる流域外対策が全体計画としては望ましいとの評価をしつつも、千歳川流域の治水対策の緊急性、実行可能性や早期の効果発現等を勘案し、「堤防強化(遊水地併用)案」を選択すべきと委員会からの提言
平成14年7月	地元代表者、地元自治体、北海道、国が「千歳川流域治水対策協議会」を設置
平成16年6月	「石狩川水系河川整備基本方針」策定 (石狩川の背水の影響を受けた高い水位に対応する対策に改定したことを明記)
平成17年4月	学識者から構成される石狩川流域委員会、千歳川流域の4市2町における関係住民、北海道知事への意見照会を経て「千歳川河川整備計画」を策定(堤防強化(遊水地併用)案)
平成18年7月	「千歳川流域治水対策協議会」が内水対策、流域対策等を取りまとめた「千歳川流域治水対策整備計画」を策定